

# Risk Flash No.177 (Vol.5 No.19)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 歴史学の視点：社員研修に学ぶ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 研究紹介：金秉基・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 3

## 歴史学の視点

### 社員研修に学ぶ

企業経営学科教授 うさみひでき 宇佐美英機

経済・経営系の学部が実学を旨とする教育を授けることを謳うのが一般的ななかにあつて、本学部は開学以来、歴史学を重視してきたのが特徴の一つではないかと、常日頃感じています。近江商人経営論、日本経営史、古文書解読などの歴史関連科目を講じている小職にとって、本学部は居心地の良い職場だと改めて実感しています。

およそ「歴史学なぞ何の役に立つのか」、という学生や研究者の声を聞かないわけではありませんか、そんな時には、「歴史学は明日役に立つものではありませんが、明後日に役に立つかも知れない学問です。少なくとも歳を重ねていけばいくほど、役に立つことがわかります」と言って、「その証拠に、生涯学習講座でいつも人が集まるのは歴史関係のもので、それ以外はほとんど少数です。それは何故なのか、良く考えてごらん」と続けることにしています。

それはさておき、近江商人を研究しているせいもあって、近江商人の経営や精神について講演依頼が少なくありません。滋賀大学経済学部の教員なので、このような依頼については社会貢献の一環だと割り切って断ることはしません。とりわけ、附属史料館に史資料を寄贈・寄託されている企業や関係者からの依頼は断わりません。ただ、私の能力を超える主題の依頼は、適任者をご紹介してお引き取り願います。

これまで企業での講演は、執行役員会、部長研修、海外社員研修、新入社員研修などさまざまな機会を与えられていますが、そこで共通するのは、創業者は何を考えて起業したのか、創業の精神とはどのようなものなのかを学ぼうとする意欲です。

しかし、このような依頼は、実はバブル経済が破綻して以降のことです。このことのもつ意味には重いものがあります。大学にも建学の精神というものがありますが、たいがいなんらかの危機・不祥事が生じた際に、創業・建学の精神が見直されるということが、経験上でほとんどです。「初心に返れ」、ということが改めて意識されるようです。ただ、そのことを行動に移せるか否かが、その企業や大学の見識だと思います。革新しなければ永続できないのは企業や大学だけではなく、人間もそうなのでしょう。でも短期的な弥縫策で危機を乗り越えたとしても、永続きはしません。創業・建学の精神を繰り返し反復して学ぶ機会を作ることが、長期的にみて重要なことなのだと、研修のつど思います。そして、その機会は同時に、研究者を目指した初心を思い返し、現状の怠惰を自省する刹那でもあるのです。

## 研究紹介

経済学科准教授 きわびよん き 金 秉 基

私は開発途上国における貧困問題を緩和するために必要な経済開発・社会開発・人間開発などについて研究を行っています。ここでは私が行っている研究について紹介したいと思います。今の開発途上国が置かれている状況がどれほど厳しいかを『世界がもし 100 人の村だったら (池田[2001])』という書籍が物語っているのです、その一部を引用します。

「世界には 63 億人の人がいますが、もしそれを 100 人の村に縮めるとどうなるでしょう。20 人は栄養が充分ではなく 1 人は死にそうなほどです。でも 15 人は太り過ぎです。すべての富のうち 6 人が 59% をもっていてみんなアメリカ合衆国の人です。74 人が 39% を、20 人がたったの 2% を分けあっています。すべてのエネルギーのうち、20 人が 80% を使い、80 人が 20% を分けあっています。村人のうち 1 人が大学の教育を受け、2 人がコンピューターをもっています。けれど、14 人は文字が読めません。もしあなたがいやがらせや逮捕や拷問や死を恐れずに信仰や信条、良心に従って何かをし、ものが言えるならそうではない 48 人より恵まれています。もしもあなたが空爆や襲撃や地雷による殺戮や武装集団のレイプや拉致におびえていなければそうではない 20 人より恵まれています。」

開発途上国が抱えている様々な問題は貧困が根本的な原因の一つとなっていると思われます。国連や世界銀行などの国際機関は戦後、開発途上国の貧困問題を解決するために様々な開発援助を行ってきました。その間、開発援助に対する考え方も大きく変わってきました。1960 年代、東西対立という緊張関係が緩和されると「南北問題 (豊かな国が地球の北半球に、貧しい国が南半球に偏っている状況とそれらの国における経済格差の是正の問題を指す)」が認識されるようになりました。南北問題の重要性が高まるなか、国連は南の貧困問題を経済開発、すなわち大量の資本と技術を投入することで経済成長を試みる開発目標を設定しました。1960 年代の開発途上国の年平均経済成長率は 5.5% であったが、所得の格差や貧困問題はますます悪化していきました。国連の開発戦略に対する批判が高まり、1970 年代には成長の恩恵が貧困層にも広く行き渡るような「ベーシック・ヒューマン・ニーズ (人間の基本的な欲求)」のアプローチへと開発戦略が転換されました。1980 年代に入ると、2 回にわたる石油危機など国際環境の急激な変化により、対外債務の返済不能に陥る開発途上国が出てくると、開発途上国の経済システムを欧米化する、つまり規制緩和、自由化、民営化、分権化する「構造調整」アプローチが開発援助の重要な位置づけとなります。1990 年代には、開発と環境の両立、すなわち「持続可能な開発」が地球的主题となりました。2000 年には、ミレニアム開発目標が定められ極度の貧困と飢餓の撲滅や初等教育の完全普及など 8 つの目標が数字目標として明確化されました。

開発途上国の貧困層は、十分な教育の機会が与えられず、経済危機や自然災害、紛争などが原因で貧困問題がさらに悪化するリスクに晒されています。貧困問題の解決は開発途上国の発展のみならず、国際社会の平和と繁栄のためにも不可欠であり、このような貧困問題の実情と解決方法を探っていくことを私の研究としています。

## リスク研究センター通信

経済学部オープンキャンパスを開催しました。

8月9日（土）、台風11号が接近するなか、経済学部オープンキャンパスが開催され、13時30分以降のプログラム中止にも関わらず1,141名の参加がありました。

多くの教職員・学生スタッフの協力の下、参加者は、経済学部の入試制度・カリキュラム・就職状況等の説明を熱心に受け、個別相談会に参加するなど情報を収集する姿がみられました。

また、学科ごとに開講された模擬講義にも多数の受講者があり、滋賀大生の気分を味わうことができた大変好評でした。

あいにくの天候にも関わらず多数の方にお越しいただき、ありがとうございました。当日の様子は、<http://www.shiga-u.ac.jp/2014/08/12/28602/> をご覧ください。

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、  
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>